



# 「よかった…」 介護紹介所

神奈川県・  
ショートステイ「安護楽」

民医連綱領

実践のゲンバに行く!! ④



いのちと健康、人権を守ろうと民医連  
ががんばるおもとは、綱領に掲げら  
れた理念があります。綱領の実践を紹介  
する連載。四回目は、神奈川県・シ  
ョートステイ「安護楽」のとりくみを。

「ここに入れてもらえて、よかった…」  
ホッとしようすで話しはじめたAさ  
ん。母親のBさんの昼食介助のため、安  
護楽にほぼ毎日顔を出しています。

「付き添いで来るようになって、(介護)  
現場の大変さを目の当たりにしています。  
でもスタッフのがんばりや、利用者への  
優しい対応がうれしい」とAさん。

母親をまつすぐ見つめるまなざしには、  
優しい温もりが感じられました。

## 食事がとれなくなつて

神奈川県葉山町にあるショートステイ  
「安護楽」は、居宅介護支援と通所介護事  
業(デイサービス)をもつ「葉山クリニッ  
ク」に併設。二四床の短期入所生活介護  
施設として二〇〇五年に開設。利用者の  
介護度は3〜5と重い人が多く、近隣の  
横須賀市、逗子市などから来る利用者も。

安護楽に来る前、他の施設でシ  
ョートステイを利用していたBさん。利用期間  
の更新を申し出ましたが、食事がとれな  
くなったことを理由に退所を求められま  
した。認知症やパーキンソン病も進行し、



笑顔で話しかける菊地さん(左)

寝たきりに。同居している夫と息子は仕  
事に出るため、日中介護できるのはAさ  
んだけ。しかし二四時間つきっきりの介  
護はあまりにも負担です。新しい施設を  
必死に探しましたが、食事のことが理由  
で断られ続けました。Bさんがクリニッ  
クの往診患者だったため、「ケアマネジャ  
ー(介護支援専門員)に相談し、なんと  
か入所できた」とAさんは振り返ります。  
Bさん同様、「自分で食事ができない」  
「インスリン注射を必要とする」などの理  
由で利用者の受け入れを拒むシ  
ョートステイも多いといいます。

「手間がかかる利用者を敬遠するの  
でしょうか。明らかな病気がないと病院も

受けない。緊急避難的にここに入所する  
ケースも増えています」

こう話すのは、介護主任の菊地英美子  
さん。「動いている間は何とかなくても、  
ひとたび動けなくなったら、生活はたち  
ゆかなくなる。介護者がいない独居の高  
齢者はとくに深刻です」。

安護楽の平均利用日数は一〇日間前後。  
「シ  
ョート」といっても、長い人では数カ  
月にわたる人も。しかし行き場を失った  
人を放っておけないと、安護楽ではでき  
るだけ受け入れようと努力しています。

菊地さんは、「どこにも入れず困ってい  
る人からの問い合わせがあっても、スタ  
ッフが『大丈夫だよ、まず受けよう』とい

# 「ここに来て 利用者によ



ってくれるのが心強い」と。

**あと1人でも職員がいたら…**

一方、安楽のスタッフは日中  
四人しかおらず、利用者が定員い  
っぱいのときは大変です。

「思うように体が動かない人の

介助が難しい。食事や入浴のときは、と  
くに緊張感をもって接しています」と那  
須美加子さん(介護職員)は話します。

わずかな人員で対応しているため、レ  
クリエーションの途中で利用者がトイレ  
に立つと、スタッフが付き添わなければ

ならず、必ず中断してしまう  
といえます。

「あと一人、あと一人でも  
スタッフがいたら…って、い  
つも思う」と那須さん。「私た  
ちが忙しければ、その分利  
用者さんへ支障が出てしま  
う。もつとゆとりのある、き  
め細かい介護がしたい」と。  
しかしどんなに慌ただしく  
ても、「まず利用者さんが一  
番」を合い言葉に、スタッフ  
へ声をかけているという菊地  
さん。

那須さんも「また来たいと  
いつてもらいたい。自宅と同  
じように安楽でも過ごせる



那須さん

工夫を心がけている」と話します。

スタッフは、利  
用者と家族の関係  
もより深めてほし  
いと配慮していま  
す。自宅でのケア  
を念頭に、入所が

長くなる家族には、一緒に食事をとった  
り、誕生日を祝うことをすすめています。  
「ここで看取りをする人もいるんです。  
できる限り足を運んでもらい、家族で過  
ごす時間をつくってもらいたい」と菊地  
さんはいいます。

「あたたかいスタッフに囲まれ、母も  
少しずつ飲み込む力が回復してきました。  
最近はとても楽しそうな笑顔も見せてく  
れるようになってきたんです」とAさん。

## 利用者に手をさしのべる介護

スタッフの努力だけでは乗り越えられ  
ない問題も。「介護保険から支払われる介  
護報酬が低すぎて、施設の維持は厳しい」  
と菊地さん。安楽では利用者の経済的  
負担を減らすため、必要な加算以外はと  
っています。なんとデイサービスよ  
り利用時間の長いショートステイのほう  
が介護報酬が低いのです。

「採算ラインぎりぎり。正直いうと、二  
四床あるベッドが、毎日二二床以上埋ま  
らないと赤字になってしまいます」

ケアマネジ

ヤーの八巻瑞  
穂さんは、

「家族がいて  
も日中は不在  
で、家に一人  
で残される高  
齢者は珍しく  
ない。政府は

『地域包括ケ  
アで』と盛んにいっていますが、とても地  
域でみられる体制になっていない」と指  
摘します。

「しかも介護保険制度は、煩雑でわか  
りにくい。国や自治体が手をさしのべ、  
介護利用につなげるような積極的な姿勢  
が欠かせません。私たちもつと地域に  
出て、介護が利用できず困っている人が



八巻さん

いない  
か、実態  
をつかむ  
とりくみ  
にも力を  
入れた

い」と八巻さん。

菊地さんも「さまざまな困難事例をも  
つと知らせていくことが大事。『必要な』  
介護を充実させることを現場から訴えて  
いきたい」と力強く語ってくれました。

文・井ノ口創記者／写真・酒井猛



ショートステイ「安楽」。デイサービスは「元気」!